

廃止措置等基盤研究・人材育成プログラム  
平成 26 年度終了（F S 課題）事後評価総合所見

<p>研究課題名；放射性ストロンチウムの即応的計測法の実用化に向けた重点研究と マルチフェーズ伸展型人材育成</p> <p>研究代表者（研究機関名）； 高貝 慶隆（福島大学）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：亀尾 裕（日本原子力研究開発機構）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：押手 茂克（福島工業高等専門学校）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：鈴木 勝彦（海洋研究開発機構）</p> <p>研究期間及び研究費；平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月 5 百万円（F S 課題）</p>	
項目	要約
1. 研究の概要	<p>放射性核種の迅速分析手法の開発と分析業務従事者の育成を目的として、研究・人材育成体制の充実化と教育プログラムの試行、Sr-90 迅速分析法の福島第一原子力発電所（1 F）への適用性評価が行われた。</p> <p>体制では、教育副学長を中心とする廃炉等基盤研究・人材育成推進室の設置や、再委託機関の福島高専、JAEA、JAMSTEC、協力機関の東電、福島県原子力センター等を加えた研究開発会議体が新たに設置された。</p> <p>第一種 RI 主任者レベルの学生と、第二種で他分野へ移行する学生の育成を目指し、放射線教育を特修プログラム化し、カリキュラムを検討した。さらに、高専－大学－大学院の地域連携教育として、福島県原子力センターでのサンプリング・試料調整、JAEA での放射線管理などの教育を試行し、高い教育効果（理解度向上）と改善点（事前レク必要など）を得ている。</p> <p>ICP-MS による Sr-90 迅速分析では、福島大学でのコールド試験と JAEA での RI 試験の後、1 F で実際に汚染水の分析が行われ、その適用性が検証された（11/27 に東電、福島大学よりプレス発表）。</p>

2. 総合所見	<p>放射性核種の迅速分析手法の開発と分析業務従事者の育成は、1F廃止措置に不可欠な重要課題であり、研究開発体制と教育プログラムの充実により継続的に進められる基盤が構築できたと評価できる。</p> <p>特に、福島高専や県の福島県原子力センター等との地域連携を強化するとともに、学内の協力・連携体制が構築されたことは、長期に亘る1F廃炉を着実に進めていく上で、重要な成果である。</p> <p>さらに、本事業のSr-90迅速分析法が、1Fでの実際の分析に役立つことを示したことは、大変大きな成果である。</p> <p>以上より、短期間ながら大変優れた成果が得られており、福島大学を中心とする大学・研究機関連携により、今後、有望な人材育成と1F廃止措置に役立つ研究の実施が期待できる。</p>
---------	---